

第19回

大航海時代

監修・講師
落合一泰

学習のねらい

1492年、スペインの港を出航したコロンブスは大西洋を西に進み、カリブ海の島々に到達した。その後アメリカ大陸に進出したスペインは、栄えていたアステカやインカなどの国家を征服し、キリスト教の布教、銀山開発などを行った。アメリカ大陸では、植民地時代の300年間に混血が進み、広くヨーロッパ文化が根づいていった。今回は、大航海時代の概要を学び、それがなぜ15世紀に訪れたのか、ヨーロッパとアメリカが出会ったことによってどんなことが起きたのかを知り、そこから現在の自分たちのあり方を考える。

＜コロンブスのアメリカ到達＞

軍事的征服 キリスト教の布教 新大陸原産の家禽・農産物

＜アステカ・インカ帝国＞ 大都市テノチティラン

アンデスの大帝国インカ スペイン侵入軍との戦い

＜広がる「ヨーロッパ文化」＞ スペイン風の街づくり

先住民のキリスト教 ヨーロッパ原産の家畜・農産物 銀山開発

■■■ コロンブスのアメリカ到達 ■■■

11世紀から13世紀にかけてキリスト教徒は十字軍を組織し、ムスリムが支配していた聖地エルサレムの奪還を目指した。しかし、一時期を除きキリスト教徒は目的を果たせず、聖地奪還のエネルギーはバルト地方などヨーロッパ北東部へのキリスト教布教へと形を変えていった。それはイベリア半島を支配していたイスラム教徒との戦いにつながり、勝利のあとは海のかなたへの布教へと連続していった。このような布教熱や航海技術の発展に後押しされ、15世紀から17世紀にかけてヨーロッパ人は世界各地に船団を送った。それを大航海時代と呼ぶ。世界の形状や各地の人間や産物などを知ったことが、その後の時代にヨーロッパ諸国が世界に進出し植民地を増やしていく基盤になった。

■■■ アステカ・インカ帝国 ■■■

スペイン軍はメキシコ地方に強大な王国を築いていたアステカを 1521 年に征服し、1534 年にはアンデス地方のインカ帝国を支配下に置いた。ヨーロッパ人がもたらした天然痘、インフルエンザ、百日咳などに免疫がなかった先住民の間では、戦死者以上に病死者が多く、全住民が死亡した地域もあった。アメリカ大陸の先住民人口は、今なおヨーロッパ人到来時の水準を回復していないと言われる。

■■■ 広がる「ヨーロッパ文化」 ■■■

スペインが征服した後、各地の先住民は強制された新たな社会システムや西洋文化を吸収し、自文化の中に組み込んでいった。キリスト教、スペイン語やポルトガル語、行政制度などの受容、教会や役場が面した広場を中央に置き、碁盤の目のように直交する道路を配置した街づくり、羊や牛、小麦やバナナなどヨーロッパ人が移入した家畜や農産物の定着などにも、先住民社会は創意工夫をこらした。

考えてみよう 調べてみよう

- コロンブスの航海の独創性は何だったのか調べてみよう。
- アメリカ大陸原産で、今の私たちの食卓を豊かにしている食品を調べてみよう。
- 外来の宗教が新しい土地に根づくとは、どのようなことなのか。日本の「マリア観音」なども例に調べてみよう。